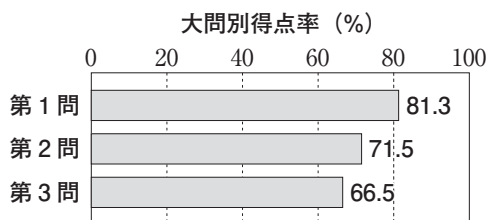
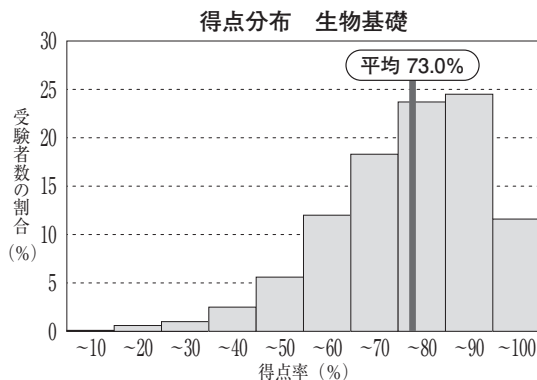


生物基礎

知識をもう一度整理しよう

I. 全体講評

今回の最終12月センター試験本番レベル模試の平均点は36.5点だった。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター本試験に準じた形をとり、第1問は生物と遺伝子、第2問は生物の体内環境の維持、第3問は生物の多様性と生態系とした。分野に偏りがなく、教科書全体からまんべんなく出題している。今回の模試で平均得点率に届かなかった大問、また他と比べて正答率の低い大問に重点をおいて、しっかりと復習をしておこう。



II. 大問別分析

第1問の得点率は81.3%、第2問の得点率は71.5%、第3問の得点率は66.5%であった。

第1問 生物と遺伝子

代謝の反応を正確に覚えよう。遺伝情報の流れを理解しよう。

Aは陸上植物の光合成に関する知識問題で、問1～問3の正答率はそれぞれ81.0%、73.1%、77.9%であった。光合成のしくみと葉緑体の特徴に関して、非常によくできていた。BはDNAからタンパク質がつくられる過程に関する知識問題だった。問4～問6の正答率はそれぞれ84.5%、89.6%、80.4%であった。DNAの構造やRNAの特徴に関する問題は正答率が高かった。構造をあいまいに覚えていた受験者は、ここで再度確認しておこう。

第2問 生物の体内環境の維持

脊椎動物の恒常性の維持に関するしくみを正しく理解しよう。

Aは、血液凝固に関する基本知識を問う問題で、問1～問3の正答率はそれぞれ84.1%、96.9%、71.9%であった。血液凝固の仕組みを正しく理解できている受験者が多かった。Bは血糖値の調節に関する基本知識を問う問題を出題した。問4～問5の正答率はそれぞれ33.8%、61.4%であった。本問の問4が、今回の問題の中で最も正答率が低かった。ヒトの血糖値は、100 mL中に約100 mgに保たれており、これは0.1%である。間違えやすい数値なので、よく確認しておこう。

第3問 生物の多様性と生態系

Aは植生の遷移に関する知識問題で、問1～問3の正答率はそれぞれ88.9%、36.7%、74.2%であった。先駆種の特徴に関する問題はよくできていた。今回は問2では陽樹の具体例を問うたが、極相種もあわせて樹種の具体例を挙げられるよう確認しておこう。Bは生態系における自然浄化に関する基本

的な知識と総合的な理解を問う問題で、問4～問6の正答率はそれぞれ61.9%、55.8%、79.0%であった。誤りの選択肢の中でどこがどう間違っているかを確認して復習することで、知識をより強固なものにしよう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆教科書の知識をしっかりと身につけることを目指そう。

センター試験の生物基礎は、大問が3題の構成で出題された。センター試験では、教科書の全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。問題文を読みこなし、データを解析し、知識をもとに考察する力が必要となる。センター試験で高得点を取るためには、最後まで教科書をしっかり読み込み、どの分野にも苦手部分が残らないようにすることが大切である。ただ暗記するのではなく、納得するまで教科書を読みこみ、仕組みを理解しながら勉強しよう。これまで受験した模試やセンター過去問を使って、しっかり復習して高得点を狙おう。

◆模試を活用しよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくことは重要である。そのため、できるだけたくさん問題に取り組んでおくことが得点力のアップにつながる。今までに受けた模試の問題をもう一度解き直してみることも有用である。これからの時期は、新しい問題に次々と手を付けるより、これまでに解いたことのある問題を使って徹底的に苦手分野を補強していこう。